



PROFILE

この・しゅうと。1993年5月4日生まれ。出身は東京都江戸川区。ポジションはMF。FRIENDLY SC OURSからJFAアカデミー福島1期生として2006年度入校。2009年U-17日本代表としてFIFA U-17ワールドカップ ナイジェリア2009に出場。広野中2年の平成19年には、ふくしま駅伝の広野町チームの一員としてエントリー。

広野町から 世界への第一歩を 踏み出す



しっかりと自分の言葉で

「僕の特徴は、テンポのいいパスと豊富な運動量です。スタッフの指導やたくさんの方の支えがあつて成長することができました。広野町の皆さんにもこの場をお借りしてお礼を申し上げます。」と、記者会見の冒頭で感謝の言葉を述べた幸野選手。

「アカデミーの寮生活については、この記者の質問には、

「仲間と過ごした寮生活は大切なものです。食事だったり、練習、風呂に入ること、一つひとつで仲間意識ができました。広野町は海が近く、山が近く、自然に囲まれています。仲間と海に行ったり楽しかったです。」と笑顔を輝かせました。

多くの記者の前に1人の高校生ではなく、1人のプロサッカー選手として自分の言葉でしっかりと質問に答え、決意と自信に満ちた表情でした。

サッカーが大好きな 少年時代

父・健一さんは「息子がプロになれると思っていました。今、その時期が来たのだと。本当によかったです。今までやってきたことが評価されたのだと。子どものころからサッカーが大好きな、普通の少年でした。」と話しました。



JFAアカデミー福島男子1期生の幸野志有人選手（広野中学校卒）が、FC東京=キーワード=（J1）に加入しました。幸野選手は、JFAアカデミー福島初のJリーグ選手になります。広野中学校に入学してから富岡高校1年までの4年間を広野町で過ごし、広野町から世界への第一歩を踏み出した幸野選手取材しました。

幸野選手はどんな選手？

父の影響で始めたサッカー。子どものころからぬきんでた存在で評価の高い、注目された選手でした。田嶋幸三日本サッカー協会専務理事（広野夢大使）は幸野選手の印象をこう語りました。「アカデミー入学試験の面接を担当したのが私でした。もともと身体的な特徴に優れ、ハートが強い、リーダーとなる存在と感じました。」

JFAアカデミー福島では、中学生年代は基本技術をしっかりと身につけるため、ボールを止めて蹴る、止めて蹴るを繰り返します。それは、この基本技術がもととなり選手の成長・将来性を切り開く可能性がより高くなるからという考えから。

「中学生の年代では、試合に負ける。技術をしっかりとしていこうという考えが目の前の勝利よりも重要視されるから。この考えを幸野選手が証明してほしい」と田嶋専務理事。

「現時点で幸野選手は、技術的・体力的・精神的にわれわれのチームで十分やっていけると評価している。しっかりと育てていきたい。」と獲得の理由を語ったFC東京の鈴木強化部長。

また、JFAアカデミー福島U-18中田監督は幸野選手を「彼は一言でいうと決定的な仕事ができる選手。」

仲間との別れ

ボールをもらう前の動きの質が高い。心技体を高いレベルで兼ね備えている。16歳でプロに飛び出すわけですから、Jリーグにとどまらず、世界で通用するよう長い期間プレーしてほしい。サッカーに対しての思い、相当、芯が強いです。」と評しました。

3月20日。アカデミー生として最後の試合に臨んだ幸野選手は試合後に「みんなと過ごした4年間、これが最後だと考えると気持ちが入った。1期生に対しては、たまたまこのタイミングで僕がFC東京に入団しただけ。早ければいいと言うものではない。みんなもタイミングが合えばプロになれる。あせらずに。」と語りました。

広野町で過ごした4年間の感想と町民の皆さんにコメントをお願いしました。

「今日の試合にも、同級生の親がサッカー場に足を運んでくれました。応援してくれていると強く感じています。広野町の皆さんには本当にお世話になりました。優しく接してもらってここまで成長することができました。ここで育ててもらったことを忘れずにプレーで恩返ししたいと思います。」

IIキーワードII
東京都にホームを置く、日本プロサッカーリーグ（Jリーグ）に加盟するプロサッカークラブ。

■サポートファミリー募集■

JFAアカデミー福島に参加する中学生と高校生を対象とし、親元を遠く離れ、慣れない環境でもスムーズな社会生活を送るために、第2の家族である広野町サポートファミリーを募集しています。

詳しくは、右記にお問合わせください。 ☎教育委員会 ☎27-4166